

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

May 2018

May						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

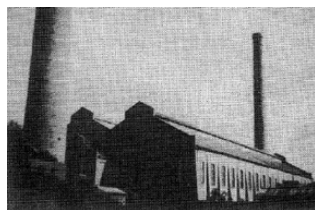
◆旧大浜火力発電所

所在地：碧南市中松町

交通：名鉄三河線「碧南中央」駅 南西 約 1km

碧南の地勢は、古くは西は遠浅の海で砂浜が広がり、権現崎を先端とした細長い半島を形成していて、当時は油ヶ淵も大きな入り江でした。1600年頃の地図を見ると、この半島上にお寺が立地しています。その後、江戸時代になり矢作川が流路を変え、この地域に流入するようになると、運ばれてきた砂により浅瀬となって、新田開発が進みます。戦後は高度経済成長に合わせて衣浦港に面した地域が埋め立てられ、現在の姿となっています。（詳しくは、『歴史災害探索まちあるきガイド碧南大浜編（碧南市市民協働部防災課 平成29年）』をご覧ください。）

碧南市の大浜地区は、江戸時代以前から半島上に位置した歴史あるお寺が多く存在し、古くから寺町として栄えてきた地区です。この大浜地区に、かつて三河地域に電力を供給していた火力発電所がありました。大浜火力発電所と呼ばれたこの発電所は、大正12(1923)年に岡崎電灯という電力会社が設置した発電所で、当初の出力は4,000kW、その後、昭和2(1927)年に6,000kWの増設が行われ、高さ53mの煙突が2本となり、三河地域の電力供給の大きな役割を担う発電所となっていました。



①大浜火力発電所・昭和初期

昭和19(1944)年には昭和東南海地震が、昭和20(1945)年には三河地震が、この地域を襲います。大浜地区は碧南

市の中でも三河地震による被害が大きかった地区で、建物の全壊240棟余り、半壊は1,000棟を数え、26名の方が亡くなっています。

大浜火力発電所も、この2つの地震による被害を受けました。高さ53mの2本の煙突は、地震による強い揺れで大きく揺さぶられ、とうとう耐えることができず上部が折損してしまいます。『東南海地震 三河地震 体験談集』には、地震の際の大浜火力発電所周辺の様子として、「煙突がぐずれ落ち、その破片が空から降下。避難の途中直撃を喰らって即死し、他にも多くの人々が逃げ遅れて倒壊した家の下敷きとなった人もあり。」との証言も残されており、崩れた煙突の破片の直撃を受けて命を落とした方もいたことがわかります。

その後、大浜火力発電所は発電所としての役目を終え、民間企業の工場として活用されますが、折れた煙突のうち1本は、折損部分そのままの状態が残され（写真①手前の煙突、奥の煙突は折損箇所を処置）、地震の揺れの凄まじさを物語る遺構として見ることができました（写真②）。平成28年に、折れたままの状態が残されていた煙突は撤去され、いまでは写真で見ることができませんが、残されたもう1本の煙突（写真③奥）からも、崩れ落ちる煙突の様子を十分に想像することができ、地震の恐ろしさを感じ取ることができます。



②折損した煙突
平成27年撮影



③煙突撤去後・平成28年撮



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声を聞き、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 旧大浜火力発電所の周辺には…

● 西端三ヶ寺

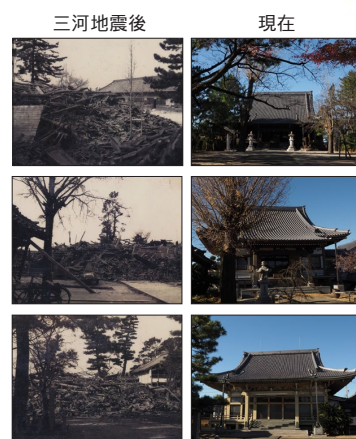
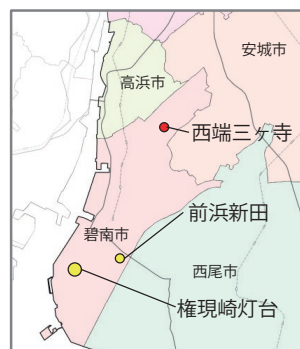
所在地：碧南市油淵町

交通：名鉄三河線「北新川」駅 東 約 2km

碧南市の北部、油ヶ淵の北に位置する西端地区の応仁寺・康順寺・栄願寺は、本願寺第8世法主・蓮如上人の三河行化における西端滞留ゆかりのお寺で、西端三ヶ寺と呼ばれています。西端集落は、昭和20年の三河地震で145戸が全壊、死者26名という大きな被害を受け、西端三ヶ寺の本堂もすべて倒壊しています。

三ヶ寺のうち応仁寺は、西端住民の手によりすぐに再建に乗り出し、倒壊からわずか12年後の昭和32年に本堂が再建されました。栄願寺は昭和58年、康順寺は平成15年の再建であり、無檀無住の応仁寺が、相当数の檀家をもつ他の2つの寺より先に、住民の強い思いにより再建を成し遂げたこととなります。

なお、三河地震の90年前、嘉永7（1854）年に発生した安政東海地震の後の再建の際にも同様だったようです。



上段：応仁寺、中段：康順寺、下段：栄願寺

★ 花しょうぶまつり

花しょうぶは碧南の市の花で、碧南市観光協会のマスコットキャラクターも、花しょうぶをモチーフにしたキャラクター（しょうぶー）になっています。



しょうぶー

花しょうぶまつりは、碧南3大花まつりの1つ（他は藤まつり、桜まつり）として油ヶ淵遊園地・応仁寺で毎年5月下旬から6月に開催されます。（平成30年は5月19日～6月17日）

油ヶ淵のしょうぶ園には、19,000㎡の敷地に花しょうぶ110種、3万株植えられており、6月になるとホテルが見られることもあります。花しょうぶまつりの期間中には写真撮影会や写生大会、お茶会などのイベントが開催されるほか、屋台も多数出展し、夜間はライトアップ（午後9時まで）も行われます。



Aichi Now HPより

5月のあいちの花

平成30年5月のあいちの花はポットカーネーションです。カーネーションは母の日に贈る花として親しまれていますが、花色が豊富で品種も多く、キクやバラとはまた違った印象の素材として、一年を通じてフラワーアレンジやブーケなどに利用されています。



みんなの園芸HPより

ポットカーネーションは、鉢物向きに育成された品種で、葉が密に茂り、草丈10～30cm程度で花を咲かせます。赤やピンクの花色のものが多く、開いた花だけでなく丸くふくらんだ蕾もボリューム感に一役買います。

● ブレイクタイム ●

♪ 碧南市藤井達吉現代美術館

碧南市の市制60周年記念にあたって旧商工会議所を増改築し、平成20年4月に開館した美術館です。碧南出身の美術工芸家・藤井達吉の作品を紹介するほか、豊かな内容の芸術文化を提供するという使命のもと、近現代美術を中心とした様々なジャンルの“美術系企画展”や、地域の歴史に注目した“歴史系企画展”を開催しています。



美術関係図書の閲覧スペース、一般貸出用の市民ギャラリー、ワークショップを行う創作室なども備えています。

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成30年5月）